

「脱原発依存」は検討重ねた発言



内閣官房参与として菅直人首相のブレーンを務める田坂広志・多摩大大学院教授が二十一日、本紙の単独インタビューに応じ、首相の「脱原発依存」宣言を前に、国民感情には原発への不安と、脱原発による悪影響への心配の両面があり、そこを大切に考えるよう助言したことを明らかにした。(宮尾幹成)

首相は十三日の記者会見で「原発を使わなくて済むなら使いたくない社会を目指す」と宣言した。田坂氏はこれに先立ち首相に会い、「多くる」と感じている。この国民は「原発は怖の国民の気持ちは大切

田坂広志 内閣官房参与に聞く

にされるべきです」と的発言はない」との批判に對しては、小泉純一郎元首相が「郵政民営化」に取り組んだ例を引き合いに、「リー

宣言で、首相は「計画的、段階的に原発への依存度を下げる」とも述べたが、この部分は田坂氏の進言を受けて、首相が自らの言葉で表現したという。運輸停止中の九州電力玄海原発2・3号機

首相はその後、宣言について「個人の考え」と軌道修正し、与野党から「思い付きの発言だ」と反発を浴びた。省原子力安全・保安院の基準による安全審査

これについて、田坂氏は「国家戦略室やブレーンによる具体的な検討を踏まえたもので、思い付きではない」と述べた。「一国の首相に個人

返った。